

帰国者	①父の氏名 ②家庭裁判所への就 籍許可申立日 ③兄弟姉妹数	父の 出身	性 別	年 齢	出 生 年 月 日	プロフィール
 <b>アラカキ イノセンシア</b> (日本名: ユニコ/ヨ ネコ)	①アラカキ ヒロシ ②2007年11月8日 ③なし	沖 縄	女	66	1945年 2月23日	父アラカキヒロシはダバオ市トリルでアバカの栽培に従事したの ち、のちにトゥバンでココナッツ精油の仕事をしていた。1943年10 月14日に、友人(ワタナベ、カマシキ、オナガ)の紹介で知り合っ たフィリピン人女性でバゴボ族のロシータ マヌエルとバゴボ族 の方式で結婚。戦中で母が妊娠中、一家はダバオデルスル州パ ダダへ移住。そこで父はフィリピン人ゲリラに捕まり拷問をうけて 死亡し、本人は父の顔を見ることなく育った。戦後日本へ引き揚 げた父のいとこの子ども「ウイチ ミノル」から父の写真を受け 取っている。
	付き添い ジョナリー M. アグラン (息子)	帰国者の現住所 ダバオデルスル州 サンタクルス町				
 <b>奥間 パシータ</b>	①奥間 萬蔵 ②申立予定 ※伊是名島在住の父 親と対面予定 ③1(第1子)	沖 縄	女	69	1941年 11月30日	父はネグロスオキシデンタル州サンカルロス市で漁業に従事し たオコマンジョ。シバワイ島出身のフィリピン人女性のアナタ リア サルドアとサンカルロス市のボロメオ教会で結婚。その後父 は服地や食料品を販売する仕事を始めた。1941年に本人、1942 年に弟が産まれた。戦中父は日本軍に従軍し、戦後日本へ強制 送還された。本人が16才頃に日本に住む父から手紙を受け取 り、父が日本で新しい家庭を持ったことを知る。調査の結果、父の 生存を確認。本人は父との面会を希望している。
	付き添い ジュディス マダヤ ア ヴィレス(娘)	帰国者の現住所 ネグロスオキシデンタル州 サンカルロス市				
 <b>トヤマ カルメリータ</b> (日本名: ヤイコ)	①トヤマ ヒロシ ②2010年4月30日 ③1(第1子)	沖 縄	女	68	1943年 2月14日	父はミンダナオ島のピンダサンにあった「フルカワ」という会社で アバカ栽培に従事していたトヤマ ヒロシ。ピンダサンのレストラ ンで働いていた母ビクトリア ナスクニヤと出会い、当時ピンダ サンにあった日本の神社で結婚式を挙げた。戦中、父は日本軍 に従軍しながら家族と共に生活し、2人の子どもをもうけた。戦争 が激しくなり、家族全員でコタバト州ピキットの母の親戚のもとへ 避難したが、そこで父は「戻ってくるかもしれないから40年間は 結婚しないように」と言い残し、行方不明になった。
	付き添い カロリナ P. コマ(娘)	帰国者の現住所 ダバオ市トリル地区				
 <b>合志 ラモナ</b> (日本名: マサコ)	①合志 進 ②2009年12月25日 ※熊本県大津町にて父 の墓参りの予定 ③なし	熊 本	女	67	1943年 11月13日	父はダバオ市トリル、トンカラで大工業や農業に従事したグン (※本人申告による)。父の弟「サイチ」とおじ「タマシロ」とともに 渡比。母から父の出身地は「クモト」と聞いていた当時トンカラ ンでは新規入植した日本人とバゴボ族の間に軋轢があったが、 父とバゴボ族の母アロン カワヤンが1941年9月20日に結婚した ことにより関係が良くなった。結婚式は日本の方式とバゴボ族の 方式の両方で執り行われ、父の友人のスガイ、タナカ、アカホシら が出席した。戦中、父は日本軍の手伝いをしていて、アメリカ軍 の飛行機から撒かれた投降を呼びかけるチラシを見て降伏を決 意。「無事に日本へ戻ったら手紙を書く」という言葉を残し別れた ままとなった。本人は父の名をグンとと思っていたが、当所の調査 の結果、合志進(1945年6月ダバオ市タモガンで戦死)と判明。
	付き添い ジョセフィン T. ビオ(娘)	帰国者の現住所 ダバオデルスル州 サンタクルス町				
 <b>坂本 レオナルド</b> (日本名: タカル)	①坂本 乙吉 ②申立予定 ※熊本県西原村にて父 の墓参りの予定 ③なし	熊 本	男	67	1944年 1月15日	父はダバオ市にあった雑貨店「フカミストア」店員の坂本乙吉。雑 貨店の2階にあった、日本人の経営する「アポスタジオ(写真 館)」で働いていた母チュオドラ サヨンと出会う。1943年頃から 両親は同棲を始めるが、戦中であつたため結婚式はできなかった。 父は日本軍とともに行動するようになり、家族は他の日本兵 と共に母の姉の家があるダバオ市のルアック山で過ごした。その 後軍隊と家族のもとを行き来していたが、本人が産まれてから約 3ヶ月後に行方不明となる。当所の調査の結果、父は1945年5月 25日にダバオ市トリポリで戦死していた。
	付き添い ライアン C. リムサン(息 子)	帰国者の現住所 ダバオデルスル州 ニューコレリヤ町				
 <b>クロサワ ホセ</b>	①クロサワ ヤシド ②調査中 ③6(第4子)	福 島	男	81	1929年 12月28日	父は北サマール州ラビサレス町で農業、大工業に従事したクロ サワヤシド。ラビサレス町で母レオンシア ハタツと結婚。その 後7人の子どもをもうけた。父は戦中フィリピン警察に拘束され たが、日本軍がフィリピンに到着したのちは日本軍とともに行動。日 本軍に連行された近所の人がブッコの日本軍キャンプで目撃し たのを最後に、消息をたつた。
	付き添い エメリー イマタ(娘)	帰国者の現住所 北サマール州ラビサレス町				
 <b>マツナガ フィレモン</b>	①マツナガ ヒルヒジ ②申立予定 ③なし	不 明	男	73	1937年 11月22日	父はセブ市の「京都バザール」で貿易の仕事をしていたマツナガ ヒルヒジ。同じく京都バザールで料理を作っていた母エネスタ サ ルドゥアと出会う。本人は母と共にダラゲテ町の母の実家で暮ら した。1940年頃に戦争が始まるという話が広まり、父は他の日本 人と共に日本へ帰国。本人は父の写真を持っている。
	付き添い マリア ガーデニア ジン キー サルデュア(娘)	帰国者の現住所 セブ州ダラゲテ町				